



YOU FEEL THE POWER // TWIN ENGINE

- ITEM LIST
- HELMET: ベクターXブレイス (ブラック)
価格: 5万2920円
 - WEAR&BOOTS: 826ベンテッドレザージャケット
価格: 4万8641-3825円
 - 817ブーツアウトベンテッドレザーパンツ
5万6160円
 - ラプターレザーグローブ
4万6440円
 - XPD X-TWOショートブーツ
1万4364円
 - アールエスエイチ
3万2184円
 - 072-874-3268



RIDER: KISSY KISHIDA



トラス形状のオリジナルアルミフレーム、NSR50用タンク(＋タンクカバー)、新デザインのアルミホイール(合わせタイプ)などの逸品が与えられ、既存のどのマシンにも似ていないフォルムを実現。



ウィリーキッズ製のオールチタンマフラーは、インパクト抜群の見た目に反して、適度に抑えられたサウンドが好印象。RS125R用倒立フォーク＋ブレンボ製キャリパー＋ネクト製ローターの組み合わせは、キッシー岸田も絶賛。リヤのシングルサイドアームは、造形美という表現がびったりの仕上がりがりだ。



モンキー用の配線を用いながら、現車合わせで延長したり縮めたり、といった地道な作業を3日間かけて行ったという。上側気筒用のCDIや点火コイルも追加している。また、東京モーターサイクルショー展示時(5月号で紹介)にはなかった3段オイルクーラーが装着されているのも外観上で目を引くポイントだ。

8000rpm以上の加速感は桁違いだが
ポテンシャルはまだまだ隠されている！



Gクラフトの中ボスことテラケンが、キッシー岸田のコメントを聞きながらキャブレター(PWKφ28)のメインジェットを変更。どうやら燃料が濃かったようで、#115／#112だった番手を#108／#110に交換するとともに、ジェットニードルのクリップを上げて薄目方向にしたところ、吹け上がりが格段にスムーズに！



本気のインプレのために、いつものレーシングスーツ＆ヘルメットに着替えたキッシー岸田の感想を聞いてみよう。「以前の仕様(88cc OHC×2)は1万rpmを超えると情性って感じだったけど、コイツは8000rpmを超えてからのマシンを押していく力がすごいね！ ガンガン伸びていくから、キャブレターのセッティングを煮詰めれば、もっとポテンシャルを引き出せるはずだよ」

能となったというわけ。ライダーはキッシー岸田。撮影用として新生Vツイン・モンキーのネオクラシックなスタイルに合わせて、アライヘルメット&RSタイチさんに装具も借りしちゃいました(感謝)。

前置きはここまでにして、いよいよ試乗開始だ。キックすると、あっけなくV型2気筒エンジンは始動した。しばらくの暖機運転ののち、ゆっくりとキッシー岸田がコースへとマシンを走らせる。

感触を確かめるべく、スローなベイスで周回を重ねるキッシー岸田。

途中、何度かピットインしてキャブレターのセッティングを変更し、タイヤも十分に暖まったところで本気スイッチがON！ 明らかに単気筒とは異なる独特なエキゾーストノートを響かせながら、1周580mのツイステイナコースを縦横無尽に駆け抜けていく。そうして存分にVツインを味わってピットに戻り、ヘルメットを脱いだ時のキッシー岸田の表情は……笑顔！ これこそ、プロジェクト成功の証……だけど、まだまだ。お楽しみはこれから。次はいよいよ、公道デビューを果たすぞ！

IMPRESSION OF V-TWIN MONKEY
DOHC化&新フレームで進化した
第二形態V型2気筒モンキー、初走行！



昨年10月のシェイクダウン時から大幅な進化を遂げたVツインモンキー。DOHC化された2気筒エンジンに、今回ついに火が入った！ 完全新設計のアルミフレームが組み合わされた前代未聞のマシンの印象とは果たして？

空前絶後の
Vツイン

予想以上の仕上がりに
キッシー岸田も驚き！

Gクラフト・山口社長の発案により、15年7月号から連載がスタートした「Vツイン・モンキー」プロジェクト。アルミ削り出しでワンオフクランクケースを製作して、あとはノーマルのパーツをできるだけ流用しながら、モンキー用V型エンジンを作ってみよう、という壮大な計画だ。

まあ、やっぱりやってみると大変なことが多くて、結局ワンオフで色々な部品を作らなきゃいけなかったり、紆余曲折があったんだけど、途中からキタコという強力な援軍を得たこともあり、見事にV型エンジンは完成！ 昨年10月のエンジンヨイ

4M1N1でシェイクダウンを敢行し、キタコ製NEW STDヘッド88ccが組み込まれた176cc 2気筒の咆哮で4M1N1ファンの耳を魅了したのだった。

その際はあり合わせ失礼！の車体にエンジンを搭載していたのだが、今年3月の東京モーターサイクルショーの出版に合わせてヘッドをDOHC化するとともに専用のアルミトラスフレームまで新作し、Vツイン・モンキーの第二形態というべき姿にまで進化。その雄姿をモトチャンプブースで目にした方も多いだろう。

そのときは時間もなく、配線作業などが手付かずのままだったのだが、今回、それらの作業がついに完了。晴れて塚カートランドでの試乗が可能

